

おおみなみ



令和2年5月11日学校だより No.2
児童数 570名

「5月5日は何の日？」



副校長 田崎 剛

いきなりですが、「今年の5月5日」は、何の日でしょう。

「今年の」というキーワードにこだわらなければ、一つ目の答えは、「こどもの日」です。「こどもの日」は、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」ことが趣旨である祝日です。この趣旨の後半部分は、意外と知らないかもしれません。

「今年の」というキーワードにこだわると、二つ目の答えは、「立夏」です。今年は、暦の上での夏は、5月5日からということです。実際に近年、夏日を迎える機会が多くなるのもこの頃からです。ちなみに、今年最初の夏日（最高気温が25℃を超える日）は、5月1日でした。5月にその年最初の夏日を記録するのは、6年ぶりだそうです。過去5年間のその年の最初の夏日は4月中でした。今年は、少し遅めの夏日かもしれません。しかし、数十年前に比べると最初の夏日の記録は、早まってきているといえそうです。立夏を迎えるころには、すでに何日か目の「夏日」で、十分に夏になってきたのを体でも感じるほど気温が上がってきている気がします。本校の運動会の開催時期についても見直す必要があるのではないかと考えています。もっとも、当初、5月30日に開催予定だった運動会は延期になりましたが、実施されるかどうか不明であることが現状です。

そして、三つ目の答えが、「都立学校の臨時休業を5月末日まで延長することが決められた日」です。国が非常事態宣言の延長を発表したのは5月4日でしたが、小池都知事が「公立学校の臨時休業の延長を要請した日」は、5月5日です。現在の状態が、人々の命を守るための措置ということを考えれば、仕方がないことだと思いますが、「こどもの日」に学校の臨時休業の延長が決まるというのは、「こどもの日」趣旨からすると残念な気がします。学校は、あたりまえのように子供が通ってきてこそ、学校と呼べるのだと、私は今、強く感じています。できるだけ早く、子供たちの自然な笑い声や元気な姿が「学校」に戻ってくることを願っています。

さまざまなことが、例年とは違う形で我々の状況を取り巻き、先行き不透明な日々ではありますが、昔から、「やまない雨はない」とも、「明けない夜はない」とも言われています。私は、「こどもの幸福」のために、今できることを確実に、一つ一つ進めていきたいと思っています。